

目次

生活科から総合への接続と展望

副会長 吉田 豊 香……………2

自分のよさに気付き、自信や意欲がもてる生活科学習  
—「気付きの段階的評価」を取り入れた活動を通して—

佐々木 佐知子……………6

【解説】 気づきの質を段階的に高め、活動への意欲やものの見方・考え方の育成に努めた  
佐々木実践

布谷 光 俊……………20

地域の力を子どもの力に  
—生活科から総合への接続—

武蔵 結 花……………54

【解説】 自立への基礎から「自ら」の資質・能力へ  
浜田 純……………68

提案「チャレンジ型総合」

—第四学年「ほくたち・わたしたち朝日丘エコチャレンジたい」の実践より—

松木 妙 子……………70

【解説】 「チャレンジ型」の教育的意義  
藤井 千 春……………84

『みるみる・ふくしま』をつくる子どもが育つ八女  
ふくしまプランの実践  
—「ひとと学びたいム」を位置づけた単元構成を通して—

小川 修 一……………86

生き物への愛着を深め、生命を大切に育てる子どもを育てる

—第二学年「生き物大好き」飼育係だよ〇〇〇〇—  
を通して—

志村 幸 子……………22

【解説】 教育の「教」と「育」の融合が心地よい実践

丹伊田 弓 子……………36

身近な地域を学びの舞台としてかわりを深め学ぶ子ども

—地域の文化や伝統にふれる学習（小3・総合）を通して—

郷間 順 子……………38

【解説】 身近な地域を見つめる目を育てる教師の粘り強いかかわり

神 永 典 郎……………52

【解説】 人とかかわりを大切に、地域に働きかける学習活動の工夫

津川 裕……………100

発刊のねらい……………102

応募・執筆要領……………103

編集後記……………104

編集後記

実践ブックレット第二号を無事、発行することができました。ご推薦ご応募下さった皆様、応募原稿を快く審議して下さいました理事の皆様方に、改めて厚く御礼申し上げます。有り難うございました。

第二号には生活科の実践を二篇、総合的な学習の実践を四篇、掲載しました。また、目次には副題まで掲げて、各実践の内容がよりよく理解されるようにしました。

第二号の特集名を「生活科から総合への接続と展望」とし、巻頭論文で吉田豊香副会長に、その意義を語っていただきました。これはかねてよりの課題でありましたし、このたびの新しい学習指導要領の告示を機に再度原点に戻って問い直すべき問題ではないかと考えたからです。

吉田副会長からは、幼稚園教育の中心である総合

的な活動の接続・発展として生活科が生まれたことを確認する必要があること。身近な素材を対象とした「主体的に学習する喜び」個別の課題がやがて学級の課題となること等の学び方」を身に付けた児童であること。総合的な学習の活動計画をともに創ることができると述べて頂きました。

この言明に示唆されて、生活科の充実に一層の気概を持って取り組むとともに、総合的な学習における活動や目標、内容の明確化、そして小中連携や教科等との関連を意識したカリキュラムの研究にも鋭意取り組み、生活科と総合の学びにおける質の向上を果たしたいものです。本号に掲載された各実践とその解説を読み解くことで、必ずや有益なヒントが得られることと思います。

実践ブックレットは更に続きます。つきましては、今後とも実践のご推薦とご応募を頂きますようお願いを申し上げます。（日本生活科・総合的学習教育学会 研究企画部長 寺尾慎一）

生活科・総合の実践ブックレット 第2号  
平成二十年六月二十日 発行

発行者 日本生活科・総合的学習教育学会  
会長 嶋野道弘  
事務局 千四四八―八五四二  
愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢一  
愛知教育大学生活科教育講座内  
電話・FAX 〇五六六―二六一  
二七二三・二七九・二二六一

印刷所 総合印刷 よしみ工業株式会社  
住所 千八〇四―〇〇九四 北九州市  
戸畑区天神一丁目三―五  
電話 〇九三―八八二―一六六一

価額 五百円（税込）